

# 農業委員会における女性登用のインパクト

高山太輔<sup>1</sup> 堀部篤<sup>2</sup> 中谷朋昭<sup>3</sup>

2016年1月

## 要旨

本稿では、女性農業委員の増加が農業委員会の業務や市町村内の農地利用に与える影響を明らかにした。インパクト評価に際して、農業委員会あるいは当該市町村等の特性が、女性農業委員の積極的な登用に作用する内生性の可能性を否定できない。そこで、農業委員選出のために3年ごとに実施される統一選挙の有無を操作変数として利用した。

全国797の農業委員会に関して、2011年から2014年までのパネルデータを作成し、固定効果操作変数法により女性農業委員登用の効果を推定した結果、以下のことが明らかになった。女性農業委員の登用は、①農地の権利移動に関する業務に有意な影響を与えていなかった、②農業者年金への加入を促進した、③市町村内の遊休農地の解消または発生を抑制していた。特に②、③の効果は、推薦によって選ばれる農業委員の経験年数が少ない女性選任委員が増加した場合にのみ観察された。

以上から、議会や農業団体の推薦による新たな女性選任委員の登用によって、遊休農地の解消・発生防止および農業者年金への加入促進において正の効果をもたらしているとともに、農地の権利移動に関する業務については、選出方法および性別による差が認められないことが明らかとなった。

JEL classification: J16, Q15, Q18

キーワード：男女共同参画，女性，農業委員会，操作変数

---

<sup>1</sup> 明海大学経済学部 Email:takayama@meikai.ac.jp

<sup>2</sup> 東京農業大学国際食料情報学部

<sup>3</sup> 北海道大学農学研究院